キャラクター名：ハルディア（小鳥遊　由美）

プレイヤー名：

メインクラス	アコライト	**Lv.1:**		**レベル**	1
サポートクラス	セージ	**Lv.1:**	セージ	**性別**	女性
称号クラス				**年齢**	20
種族	ｱｰｼｱﾝ（肉体はｴﾙﾀﾞｰﾅﾝ）			**境遇**	任意：病死
出自（効果）	記憶鮮明			**目標**	小さな幸福

	筋力	**器用**	**敏捷**	**知力**	**感知**	**精神**	**幸運**
基本値	9	9	8	12	8	7	6
ボーナス	3	3	2	4	2	2	2
クラス修正	0	1	0	2	1	1	1
他修正							
能力値	3	4	2	6	3	3	3

HP	29
MP	33
フェイト	5

装備品		**射程**	**命中**	**攻撃**	**回避**	**物防**	**魔防**	**行動**	**移動**
右手	スタッフ	至近	-1	2	0	1	0	0	0
左手									
頭部	ハット					1			
胴部	ローブ					2			
補助									
装身具	聖印								
能力値			4	0	2	0	3	5	8
スキル									
その他									
総計(右)			3	2	2	4	3	5	8 m
総計(左)									
総計(両)									
ダイス数			2 d	2 d	2 d				

	能力値	スキル	その他	合計	ダイス数
トラップ探知	3			3	+ 2 d
トラップ解除	4			4	+ 2 d
危険感知	3			3	+ 2 d
エネミー識別	6			6	+ 3 d
アイテム鑑定	6			6	+ 2 d
魔術判定	6			6	+ 2 d
呪歌判定					+ d
錬金術判定					+ d

所持品	
冒険者セット	
MPポーション	

現在重量：6

最大重量：9

所持金：170

預金・借金：

スキル名	**SL**	**コスト**	**タイミング**	**射程**	**対象**	**判定**	**制限**	**メモ**
アーシアン：転生	★	-	パッシヴ	-	自身	-		
効果：タイミングがメイキングのアーシアン以外の種族スキル一つを修得。ただし幸運基本値-3								
プロテクション	2	3	DR直後	20m	単体	自動成功	1/MP	
効果：対象が受ける予定のダメージに-[SLd]								
イモータリティ	★							
効果：トリビアリストを習得する								
トリビアリスト	★	6	判定直前	-	自身	自動成功		
効果：判定を知力で行う								
ヒール	1	4	メジャー	20m	単体	魔術		
効果：HPを3ｄ+CL*3回復								
エンサイクロペディア	1	-	セットアップ	ー	自身	自動成功		
効果：エネミー識別を行う								
トゥルースサイト	1		パッシブ					
効果：エネミー識別に成功したら防御力も見れる								
モンスターロア	1		パッシブ					
効果：モンスター識別に+1ｄ								
カルチャー：現代地球	1		パッシブ					
効果：現代地球文化に関する知識に+1ｄ								
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								

私は、ブリガンティア様にお使えするごく普通の神官だった。
故郷のエルダーナンの森のなかで、ブリガンティア様にお使えする神殿の娘として、ごく普通の日々を送っていた。

そんなある日・・・私は、天啓を得た。

何処かわからない場所。そこで生きる、私ではない私。
その記憶が、経験が、感情が、ぶわっ、と頭の中に流れてきて。

激流のように流れていったソレを、私は全て拾うことは当然できなかったけど・・・
その日から、目を閉じて意識を集中させることで、「私ではない私」の知識を引き出せるようになった。
もっと集中すると、『私ではない私』の人生の一部を、追体験できるようになった。
すごい力に見えて、案外役に立ったりたたなかったりするけど・・・（森の中の毒キノコについての知識を「引き出して」みたら、この世界のきのこは記憶の中の世界には生えていなかったり）
それでも、使えるものは使える。そして使う。
素早く計算する方法、とっさの応急処置の知識、人に嫌われない会話の仕方・・・（を思い出すと毎回「出来たら苦労しない・・・」という以前の私の怒りも思い出してちょっとブルー）

そう。私は私だ。
昔の私が、何を考え、何を思い、何を見て生きてきたか、私は知っている。でもそれでも、私は私だ。
そう思って、チョロチョロとこの力を使っていたら、神殿長のお父さんから、
「お前は森をでなさい。立派な神官になるためには、森の外のことを知っていなくてはいけない。30年ほど経験を積むのです」
と言われたので、たびに出ることにした。